

まち・ひと・しごと創生第2期別府市総合戦略基本目標・取組KPI達成状況

基本目標 1 しごとの創生 資源（ひと・温泉）をいかして新たな価値を創り、儲かる別府に進化する。

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	基本目標・重要業績指標（KPI）															自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 （実績値を算定できな い理由等）
			指標名	現状値 (H30年度)	目標値	令和2年度 実績値	達成度	目標値	令和3年度 実績値	達成度	目標値	令和4年度 実績値	達成度	目標値	令和5年度 実績値	達成度	R6年度 目標値			
労働人口に占める所得割の納税義務者数の割合				48.08%		46.96%				46.49%			46.35%			46.95%		49.08%		
施策ア 「ツーリズムバレー 構想」の推進	①別府の観光産業に新たな風 を吹かせる「起業・創業」の 強力な推進	・会社設立支援補助金 交付決定 14名 ・創業支援事業補助金 交付決定 8名 ・スタートアップ都市推進協議会 「ジャパンスタートアップセレクション」を開催。（※各地域のスタートアップ企業と 全国の大手企業・投資家等との協業促進を目的としたビジネスマッチングイベント） 別府市からビジネスマッチング枠として、㈱クラフトマンシップ、Lost Item Delivery ㈱の2社が登壇。チャレンジ枠として、ONE BEPPU DREAM AWARDのファイナリスト1名が 参加。 ・海外派遣プログラム「J-StarX」 経済産業省主催海外派遣プログラムを活用し、地域起業家をシリコンバレーに派遣。最 先端のスタートアップ・エコシステムでの現場実地研修や現地キーパーソンと交流する プログラムを実施。別府市から上級コース2名、一般コースに7名派遣。 ※施策イ 別府市産業連携・協働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性 化 取組①「B-biz LINK」との連携に記載した事業と連動	起業・創業件数	65件	67件	70件	104.5%	69件	76件	110.1%	71件	74件	104.2%	73件	81件	111.0%	75件	A	交流の機会、サポート体制、起業・創業を 後押しするヒト・モノ・情報の供給などが 少しずつ形になってきており、この数年間 で起業・創業しやすい環境づくりが進んで いると考える。	
		起業・創業相談対応件数	559件	564件	404件	71.6%	569件	520件	91.4%	574件	615件	107.1%	579件	778件	134.4%	584件				
		②別府に新たなビジネスを作り 出す人財、別府の観光産業 を担う人財の育成	・起業・創業支援事業（DREAM ACADEMY） セミナー5回開催 参加者68名 別府で、共に成長する継続的な「学び舎」となる場を構築し、視野を広く持つ目を磨き、事 例を共有することで、起業したい人、事業を加速したい人を支援。 ・起業・創業支援事業（DREAM CAMP） 参加者17名 サポーター15名 学生を対象に お互いがやりたい事を語る場を提供し、そこに社会人を加え、やりたい事の 実現に向けてアドバイス。そこで立てた目標を発表する「DREAM CHALLENGE」から、1件あたり 15万円のテストマーケティング費用を3組に提供。 ※施策イ 別府市産業連携・協働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性化 取組①「B-biz LINK」との連携参照	大学などと連携して実施 した講座の受講者数	-	20人	0人	0.0%	20人	32人	160.0%	20人	252人	1260.0%	20人	85人	425.0%	200人 （累計）	A	リアルでの学びと交流の機会を数多く開催 できた。 特に上述のDREAM CAMPでは、学びだけでは なく、大学・金融・起業家・企業・行政と 学生が交流し、そこからビジネスのチャレ ンジをするという実践の機会までを創出す ることができた。
	③別府を応援してくれるヒ ト・企業とのつながりの強化	・BEPPU FAN TOWN コミュニティ参加数 FAN 506名 CHALLENGER 152名 MENTAR 62名 SUPPORTER 149社（R5.3.31時点） ・BEPPU FAN TOWN交流会 毎月第1火曜 14：00～16：00 開催 計9回開催、157名参加（うち1回は関東交流会：31名参加）	BEPPU サポーターズのメ ンバー数	-	30者	40者	133.3%	60者	62者	103.3%	90者	102者	113.3%	120者	149者	124.2%	150者 （累計）	A	「BEPPU FAN TOWN」開設以降、着々とコ ミュニティ参加数は増加している。また、 リアルな交流機会を創出することでツーリ ズムバレー構想の柱のひとつである「ヒ ト・企業とのつながり強化」につながって いる。	
施策イ 別府市産業連携・協 働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性 化	①「B-biz LINK」との連携	・起業・創業支援事業（ONE BEPPU DREAM AWARD） ファイナリストの「地域課題の解決」や「社会価値を創造する」ビジネスモデルが生まれたストーリーを 知ってもらい、多くのサポーターが実現・創出に向けて後押し。 ファイナリスト9名、サポーター企業72社、パートナー機関14機関、マッチング件数148件 ・起業・創業支援事業（DREAM ACADEMY） セミナー5回開催 参加者68名 別府で、共に成長する継続的な「学び舎」となる場を構築し、視野を広く持つ目を磨き、事例を共有する ことで、起業したい人、事業を加速したい人を支援。 ・起業・創業支援事業（DREAM CAMP） 参加者17名 サポーター15名 学生を対象に お互いがやりたい事を語る場を提供し、そこに社会人を加え、やりたい事の実現に向けて アドバイス。そこで立てた目標を発表する「DREAM CHALLENGE」から、1件あたり15万円のテストマーケ ティング費用を3組に提供。 ・起業・創業支援事業（B-STARTUP） ONE BEPPU DREAM AWARD過去のファイナリスト、BEPPU SPRING VALLEY Certificate受賞者が発表したビジ ネスプランを伴走支援することで実現をサポート。 支援対象者 11名 ・起業・創業支援事業（B-biz LINKメンタリング） 起業・創業を目指す人や興味のある人からの相談会を定期的に実施 22件 ・企業・起業家情報発信事業 別府で起業した人の事業紹介やビジネスの種（地域課題等）を発信し、別府でもビジネスができる場であ ることの認知を上げていく取組を実施。 ・新商品開発・販路拡大事業 地域資源が豊富な別府のモノや環境を活かしてあらゆる視点から商品や観光体験を開発し、それらをカタ チにした新商品・新サービスの創出支援。 GIFT認定 10事業者	B-biz LINK が中心となっ て実施したプロジェクト 数	-	1件	1件	100.0%	1件	2件	200.0%	1件	5件	500.0%	1件	5件	500.0%	5件	A	「起業・創業等の推進」、「人財育成」、 「ヒト・企業とのつながり強化」の3つの 柱に基づく「別府ツーリズムバレー」の取 組をB-biz LINKと連携を密に進めてい る。 まさにB-biz LINKが市内の企業、大学、行 政、地域の連携・協働のハブとなり、地域 経済の持続的な発展と市民の生活の向上に 寄与していると考える。	
施策ウ 大学などと連携した 産業人材の育成・確保	①大学などと連携した本市の 産業を担う人材の育成	市内各大学と定期的な意見交換等は実施。 （※教育機関のカリキュラムに組み入れるなどの効果的・効率的な育成スキームの 構築には至っていない）	旅館・ホテル業の人材派 遣登録者数	-	50人	0人	0.0%	100人	-	-	150人	-	-	200人	-	-	250人	E	市内のホテルや旅館の人材不足対策を目的とし て、令和元年度に宿泊業就労支援事業を実施し、 その後も継続の予定としていたことから指標とし て掲げていた。令和2年度はコロナ禍に伴い、宿 泊事業者、求職者とも利用ニーズがなく、事業は 2年度で終了している。	
	②大学連携の促進と地域協働 の推進	ふるさと納税を活用した別府市と大学の連携事業により、立命館アジア太平洋大学、九州大学 病院別府病棟の別府市を活性化させるための事業に対し、補助金を交付した。 大学等による「おおいだ創生」推進協議会と大分高等教育協議会が発展的に統合し、設立され たおおいだ地域連携プラットフォームに参加し、地域課題解決やイノベーション創出について 協議した。	施策立案において大学と 連携したプロジェクト数	-	1件	1件	100.0%	2件	1件	50.0%	3件	3件	100.0%	4件	2件	50.0%	5件	C	令和5年度はKPI達成率50%と目標の半分の実績と なったが、各大学と連携し、別府市の歴史及び伝 統工芸品の普及に関する事業、別府市の観光PR や市民に対し海外の多様な文化に触れる機会を創 出する事業などを通じ、別府市の活性化に寄与で きた。	
	③学生の地元就職の促進	・地元高校との連携により、探究授業の一貫として生徒の関心のあるテーマについて関係部署 の職員が出向き、別府市の取組や制度、市内の現状について講義を行うなど、地元に対する愛着 を深めるための取り組みを行った。 ・7月に高校生を対象にした合同企業説明会を開催 ※参加企業24社 来場者85名 ・12月に大学生や短大生、UIJターン含む転職希望者等を対象にした合同企業説明会を開催 ※参加企業25社 来場者38名 ・商工会議所や県との連携により若年者等の就労窓口相談を設置した。	市内高等学校卒業生の就職 のうち市内就職率	43.0%	44.4%	40.9%	92.1%	45.8%	41.0%	89.5%	47.2%	45.7%	96.8%	48.6%	48.7%	100.2%	50.0%	B	市内就職率を高めていくことは容易ではな いが、別府の産業人材として確保・育成し ていたために、インターンシップの改善や就 職マッチングイベントは継続開催していく ことは、市内企業の人材確保支援につな がっていくと考える。	
			市内大学（短期大学を含 む）卒業生の就職者のうち 市内就職率	8.0%	8.8%	6.5%	73.9%	9.6%	7.6%	79.2%	10.4%	8.2%	78.8%	11.2%	7.4%	66.1%	12.0%			
	④UIJ ターンの促進や外国人 労働者の受入などによる市外 からの人材確保	本市の魅力を活かした移住を促進するため、主に以下の取り組みを行った。 ①おためし移住施設の運用を継続することで、本市での生活を体感する取り組み ②東京・大阪・福岡での個別移住相談会の開催 ③移住支援金を地域課題解決のための手段として活用し、公共交通の安定的な維持 するためのドライバー不足解消に取り組んだ	移住に関する相談件数	254件	279件	100件	35.8%	305件	85件	27.9%	330件	106件	32.1%	356件	227件	63.8%	381件	B	近年の移住相談会の取り組みを強化し、移住計画 書を刷新するなど、別府市の魅力を移住希望者に 的確に情報提供することで、移住者の数も増加傾 向にある。また、移住相談会では、本市の移住相 談件数は県内の他市町村の中でも最も多く、相談 内容も総合戦略に基づくそれぞれの施策にいての 意見も聞かえてくると、その効果が現れ始めて おり、関係人口の創出につながっていると感 じる。 しかし、移住希望者の多くが高齢の方が中心で あることから、若者世代や子育て世帯の移住促進 に繋がる対策を取り組む必要がある。	

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	基本目標・重要業績指標（KPI）															自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 （実績値を算定できな い理由等）
			指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			R6年度 目標値			
				(R30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度				
施策エ　いまある資源を活用 したイノベーションの推進	①竹産業のイノベーション	・市内の竹工芸家等の事業継続を支援するため、小規模事業者5者に対し、販路拡大及び開拓を目的とした国内外での展示販売会及びHP作成に係る経費の補助を行った。 ・市民が幼少期から竹に触れる機会を提供するため、新生児への竹のベ이스プーン贈呈事業を実施し、609本を贈呈した。 ・令和元年度に整備した市有竹林の維持管理のため下刈りや除伐を実施した。 ・異素材との組合せによる和装・洋装のどちらでも合わせられるバンブーバッグ3点を開発し、東京等で展示会を実施して情報発信を行った。 ・竹細工伝統産業会館において、指定管理者がワークショップやイベントの開催、外部行事への参加を行うとともに、ふるさと納税の返礼品提供を行う等、様々な取組みを通じて別府竹細工の認知度向上を図った。 また、市内宿泊施設に特別優待券を設置した他、海外からのツアーやホテル等でのイベントでワークショップを実施し、地域との連携による別府竹細工の普及にも取り組んだ。 ・産地組合と連携し、J R別府駅の駅前広場のモニュメントに竹のオブジェを設置した。	竹工芸訓練センター修生の市内就職者数	2人	5人	7人	140.0%	8人	9人	112.5%	11人	13人	118.2%	13人	17人	130.8%	15人	C	産地組合や竹工芸訓練センター等関係機関との連携の下、担い手の確保・育成に取り組んだことにより、竹工芸訓練センター修生の市内就職者については、目標を上回る人数となった。 開発した新製品の売上げについては、コロナ禍により令和2年度及び令和3年度の事業を中止し、継続的な情報発信ができなかったこと等により、平成30年度の売上個数を下回った。 宿泊施設等とのコラボ数及び竹細工伝統産業会館の入館者数については、竹細工伝統産業会館の指定管理者によるイベント等を通じた積極的な情報発信等の結果、目標の80%以上を達成しており、今後更なる改善が期待できる。 さらに、竹林の整備については、別府公園内の竹林及び令和元年度に整備した鑑賞用竹林の維持管理作業を継続して行っている。	
		竹細工新製品の売り上げ（個数）の伸び率	-	10%	-21%	-210.0%	20%	85%	425.0%	30%	-22%	-73.3%	40.0%	-9.2%	-23.0%	50%				
		竹製品（竹細工）と宿泊施設などとの新規コラボ数	-	2件	0件	0.0%	4件	3件	75.0%	6件	5件	83.3%	8件	8件	100.0%	10件				
別府市竹細工伝統産業会館の入館者数		11,500人	12,080人	5,728人	47.4%	12,660人	8,153人	64.4%	13,240人	11,886人	89.8%	13,820人	13,406人	97.0%	14,400人					
			適正管理・整備された竹林の面積	0.5ha	0.9ha	0.9ha	100.0%	1.3ha	0.9ha	69.2%	1.7ha	1.4ha	82.4%	2.1ha	1.4ha	66.7%	2.5ha			
	②温泉を活用したビジネス展開の検討	・温泉に関する検証を深め、別府ONSENアカデミア等で情報発信した。 ・温泉が与える好影響についてのエビデンス取得を目指し、腸内細菌検査等を活用した温泉入浴の効果を検証する実証実験を行い、九州大学都市研究センターより分析結果を発表した。 ・株式会社明治との包括連携協定による「別府温泉賑活プロジェクト」関連事業として、市内民間施設等と連携したスタンプラリーやステイプランを実施した。 ・温泉入浴が心身にもたらす効果を調査し、エビデンスとなるデータを収集する「大計調査」を実施した。	温泉を活用した新たなビジネスのモノ・コトの商品化数	4件	5件	6件	120.0%	7件	6件	85.7%	9件	7件	77.8%	12件	11件	91.7%	16件	B	温泉が与える好影響についてのエビデンス取得を目指し、具体的な検証を実施し、検証結果を発表することができた。	
	③勤務地・居住地に縛られない企業などの市内におけるビジネス展開の促進	・オフィス系企業誘致補助金 市内にオフィス系事業所を設置した市外企業に対し、一定の要件を満たした場合に補助金を交付。 令和5年度新規進出　1社 ・コワーキングスペース管理運営 県外からのワーケーションの拠点として、鉄輪エリアのコワーキングスペースの管理運営を行った。 年間利用者　921名 ・別府ワーケーションWEEK 別府独自のプログラムでワーケーションイベントを実施。 参加者　19郡県40名	コワーキングスペースの利用企業数	-	10社	8社	80.0%	20社	83社	415.0%	30社	80社	266.7%	40社	81社	202.5%	50社	A	関東圏からのコワーキングスペース利用者が約3割を占めるなど、ワーケーション事業を推進することが多くの県外企業・ビジネスパーソンの呼び込みにつながっている。 また、別府でのビジネス展開や拠点設置を検討する企業に対し、きめ細かいフォローをすることが誘致実績につながったと考えられる。	
			誘致企業数	1件	2件	1件	50.0%	2件	3件	150.0%	3件	6件	200.0%	4件	7件	175.0%	5件			
施策オ　誰もが活躍できる環境の整備や雇用の促進	①市内企業などの働き方の多様性の確保	関係機関の実施する取組やセミナーについて、ホームページや市報で周知を図った。 別府市での予算計上なし。	働き方改革に関する啓発やセミナーへの参加事業所の働き方に取り組んだ事業所数の割合	-	30%	-	-	40%	-	-	50%	-	-	60%	-	-	70%	E	独自の事業が実施できなかった、関係機関の実施するセミナーや講座については周知を図った。 コロナ禍で在宅ワークや時差出勤、オンライン会議等が急激に進んだこともあり、本市においても様々な働き方がワークライフバランスの実現がさらに推進されるような取組を進めることが必要と考える。	
	②仕事と子育ての両立ができる社会の実現	9月15日を含む1週間を別府市男女共同参画週間と定めて様々な啓発活動を実施している。 この期間に市民への啓発としてフォーラムを開催している。 日時　令和5年9月15日（金） 場所　ピーコンプラザ　国際会議室 講師　NPO法人東京レインボープライド共同代表理事　杉山　文野氏 演題　はじめてのLGBTQ　～性の多様性と人権～ 男女共同参画事業や女性の活躍推進については、事業所や地域でのジェンダー平等の視点で見直す意識啓発を推進するため街頭啓発や啓発誌「あすてっぷ」、ホームページ、公式SNSなどで情報発信を行うとともに、内閣府及び別府市の男女共同参画週間において、キャンペーン等で市民へ直接呼びかけ啓発を行った。	女性の参画を推進する啓発講座参加者数	275人	500人	0人	0.0%	530人	0人	0.0%	560人	120人	21.4%	590人	100人	16.9%	600人	C	男女共同参画センターの空調工事のため12月まで休館だったため、主催講座が開催できなかったが、啓発誌やSNSを活用し固定的役割分担意識を見直す啓発や、女性が働きやすい職場を作るための休暇取得、男性の育児休暇取得についてなどを情報提供をすることができ、今後も講座やイベント等を通してジェンダー平等の意識を図って行きたい。	
	③障がい者の活躍促進	●就労移行支援 一般企業等への就労を希望する65歳未満の障害者に、一定期間就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練（就労移行支援）を行う事業所に、所定の算定方法により就労移行支援給付費（報酬）を支給。 〔根拠法令：障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（通称：障害者総合支援法）〕 【令和5年度】　　　　　（参考）【令和4年度】　　　　　【令和3年度】 ・対象事業所数　　　6事業所　　　6事業所　　　6事業所 ・対象延人員　　　　271人　　　216人　　　240人 ●職場実習促進事業（R4からの新規事業） 職場実習を希望する障害者と、障害者雇用の意向がある企業のパイプ役を担い、双方の連絡調整などによりマッチングを図る職場実習促進事業を導入し、障害者の自己の適正及び受入企業の障害者雇用への不安解消等を目的とした実習を行った場合は、受入企業と障害者本人を対象に奨励金を交付することで、障害者の就労機会の拡充を図った。 ・職場実習の実件数　14件（延べ実施日数121日＝実習生奨励金の交付件数（2,000円／件）） ※企業奨励金の交付件数は91件（2,000円／件、交付辞退により件数は減少） ・雇用成立件数　12件 ●別府市重度障がい者等就労支援特別事業（R5からの新規事業） 「通勤、営業活動等の経済活動に係る外出」として重度訪問介護サービス費の支給対象外となる部分であって、障害者の雇用の促進等に関する法律に規定する助成金を活用しても重度障がい者等の雇用の継続が困難であるとして、支援計画書において認められた部分（時間）について、重度障がい者等の就労機会の拡大を図るため、対象者に対し、重度訪問介護等に相当する支援を提供した。 ・本事業の総利用件数　5件（事業所3件、個人2件）	障がい者の一般就労への移行者数	40人	42人	21人	50.0%	44人	36人	81.8%	46人	50人	108.7%	48人	46人	95.8%	50人	A	5類移行後のコロナ禍や物価高騰の影響を受けつつも、令和4年度からの新規事業である職場実習促進事業の実施（12件の雇用成立実績）が、目標値に及ばなかったものの、相当程度有効であったと自己評価している。	
	④高齢者の活躍促進	新型コロナウイルス感染症の影響により事業実績なし	マッチングイベントの参加者数中の就業者数	4人	8人	-	-	12人	-	-	16人	-	-	20人	-	-	25人 （累計）	D	新型コロナウイルス感染症の影響により事業実績なし	

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	基本目標・重要業績指標（KPI）															自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 （実績値を算定できな い理由等）
			指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			R6年度 目標値			
				(H30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度				
施策カ 農林水産業の活性化	①農林水産業の活性化	【令和5年度】 ・農業基盤整備促進事業の実施 ・新規就農者の育成 ・中山間地域等直接支払交付金の交付 ・センサーネットワークによる有害鳥獣の被害防止対策の実施 ・森林環境譲与税を利用した内成地区の森林整備の実施 ・海底耕うんの実施 ・栽培漁業推進事業の実施	農林水産業の担い手確保数	36人	37人	34人	91.9%	38人	33人	86.8%	39人	39人	100.0%	40人	24人	60.0%	41人	B	令和5年度は新規参入者は無かった。 また多くの認定農業者が認定更新時期となり継続しない農業者の分、実績値が減少した。 農林水産業従事者が高齢化しているため担い手は減少傾向はあるが、 就農相談など今後も取り組みを継続する。	
	②農林水産物の特産品化及び地産地消の推進	・ざぼんサイダーの製造及び販路開拓を行った。 ・学校給食による地産地消の促進のため、給食へ地元産物の導入を行った。 ・「食×観光」事業の推進により、生産者と宿泊・飲食事業者を繋いだ。 ・農産物の高付加価値化に向けた「環境にやさしい農業研究支援」事業により減農薬・減化学肥料に向けた栽培の調査・研究を行った。 ・ふるさと納税などをターゲットとした5か所の棚田米食べ比べ商品を製作・販売した。 ・棚田イベント「湯のまち棚田マルシェ」を天間棚田で実施し、棚田米にあうおかずを宿泊・飲食事業者とともに棚田の生産物を活用して開発した。	農林水産物の特産品化数	5件	6件	8件	133.3%	7件	8件	114.3%	7件	8件	114.3%	7件	10件	142.9%	8件	A	「食×観光」事業の取組として、農業者と宿泊・飲食事業者との交流イベント（生産者めぐりツアー、農業者と飲食・宿泊事業者の交流会）を実施した。これらイベントや地道なマッチングにより、地元産の農産物の新たな取引が生まれている。 農産物の高付加価値化に向けて「環境にやさしい農業研究支援事業」により減農薬・減化学肥料による栽培の調査・研究を実施した。 また、2回目となる棚田イベント「湯のまち棚田マルシェ」を天間棚田で開催し、今年度も棚田米に合うおかずを宿泊・飲食事業者と開発することができた。 継続して商品の販路開拓に努めるとともに、「食×観光」事業等の取組を推進することにより、さらなる新商品開発や高付加価値化を推進する。	

基本目標2しごとの創生 多様性と受容性をいかして、別府に新しいひとの流れをつくり、受け入れる。

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	指標名	現状値	基本目標・重要業績指標（KPI）												R6年度 目標値	自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)
				(H30年度)	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度						
				86,555百万円		43,928百万円			40,307百万円			63,495百万円			85,781百万円		95,211百万円			
観光客消費額				9,043千人		4,427千人			3,722千人			5,379千人			6,801千人		9,947千人			
総観光客数																				
宿泊者数				2,523千人		1,358千人			1,183千人			1,939千人			2,388千人		2,775千人			
施策ア 世界一の温泉観光都市への挑戦（新たな観光資源の開発と進化）	①温泉を活用したスパリゾートの開発	事業実績なし。	屋外温浴施設数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1件	D	実施していないため。		
	②別府の観光温泉文化の歴史を踏まえた持続可能な集客力ある温泉観光都市づくりの推進	・観光の4本柱「ユニバーサルツーリズム」「観光DX」「免疫力日本一宣言の実現」「食×観光」の事業を実施した。温泉が与える好影響についてのエビデンス取得を目指し、腸内細菌検査等を活用した温泉入浴の効果を検証する実証実験を行い、九州大学都市研究センターによる分析結果を発表した。 ・株式会社明治との包括連携協定による「別府温泉腸活プロジェクト」関連事業として、市内民間施設等と連携したスタンプラリーやステイプランを実施した。 ・商店街が実施するイベント、街路灯の電気料金や省エネ化に対して補助を行い、活性化に取り組む商店街を支援した。 ・県外からのワーケーションの拠点として、鉄輪エリアのコワーキングスペースの管理運営を行った。また、B-biz LINKと連携して、ワーケーションのプロモーション・誘致活動を行った。 (※ワーケーション実施企業81社)	宿泊者数	2,523千人	2,607千人	1,358千人	52.1%	2,649千人	1,183千人	44.7%	2,691千人	1,939千人	72.1%	2,733千人	2,388千人	87.4%	2,775千人	C	4本柱の事業実施など、別府の観光温泉文化を踏まえた持続可能な集客力ある温泉観光都市づくりを推進するために効果はあったと考える。 商店街と連携しながら、賑わい創出に寄与するイベント等の取り組みを支援し、観光客を含めた集客につながった。 関東圏からのコワーキングスペース利用者が約3割を占めるなど、ワーケーション事業を推進することが多くの県外企業・ビジネスパーソンの呼び込みにつながっている。	
	③ユニバーサルツーリズムの先進地に向けた整備	ユニバーサルツーリズム推進のため、以下事業を実施した。 ・ユニバーサルツーリズムサミット開催 ・ユニバーサルツーリズム接遇研修 ・施設を対象としたバリアフリー化作成 ・別府市観光情報調査・更新 ・ユニバーサルツーリズムモニターツアー ・車いすやベビーカーのレンタルサービス	観光に関するバリアフリーマップの登録件数	289件	315件	437件	138.7%	340件	438件	128.8%	360件	256件	71.1%	380件	277件	72.9%	400件	B	サミットでの講演や全国のバリアフリーツアーセンターの活動発表、接遇研修やモニターツアーなど実施し、理解と受入体制の推進につなげることができた。	
	④外国人観光客増加に向けた受入環境の整備	外国人観光客の利便性向上のため、JR別府駅と鉄輪で外国人観光客案内所の組織強化、及び外国人観光客むけ案内所（WANDER COMPASS BEPPU）の運営。	観光案内所（WANDER COMPASS BEPPU）の外国人来訪者数	-	8,500人	839人	9.9%	10,500人	945人	9.0%	12,500人	12,191人	97.5%	14,500人	72,995人	503.4%	16,500人	B	情報提供や情報発信、各種サービスの提供に努めた。	
	⑤地域公共交通の利便性向上	別府市公共交通活性化協議会を4回開催し、市内交通体系について協議した。 東山地区、大所・小坂地区にて乗合タクシー事業実施。 別府市コミュニティバス内成欄田線の実証運行を継続。 夜間における移動手段の確保のため、ナイトバスを運行した。	人口一人当たりの年間公共交通（鉄道・バス）利用回数	84.2回	85.0回	56.6回	66.6%	85.7回	56.1回	65.5%	86.5回	70.8回	81.8%	87.2回	74回	84.9%	88.0回	B	依然とした乗務員不足による減便や利用者の減少はあるものの、新型コロナウイルスが5類に移行したことにより人の移動も徐々に増え、夜間の移動手段の確保及び外出促進に繋げるためのナイトバスの運行をしたこと等の理由により、一定程度の利用の増加がみられた。	
	⑥観光客に対するおもてなし体制の整備・強化	ユニバーサルツーリズム推進事業として、観光事業者を対象とした接遇研修を3回実施した。	おもてなし規格認証の認証取得件数	-	5件	0件	0.0%	10件	0件	0.0%	15件	0件	0.0%	20件	0件	0.0%	20件	C	研修会を開催し、観光事業者の高齢者や障がいのある人への理解や接遇向上につなげることができた。	
(再掲：1 (エ) ①) ⑦竹産業のイノベーション		・市内の竹工芸家等の事業継続を支援するため、小規模事業者5者に対し、販路拡大及び開拓を目的とした国内外での展示販売会及びHP作成に係る経費の補助を行った。 ・市民が幼少期から竹に触れる機会を提供するため、新生児への竹のベビースプーン贈呈事業を実施し、609本を贈呈した。 ・令和元年度に整備した市有竹林の維持管理のため下刈りや除伐を実施した。 ・異素材との組合せによる和装・洋装のどちらでも合わせられるバンパーバッグ3点を開発し、東京等で展示会を実施して情報発信を行った。 ・竹細工伝統産業会館において、指定管理者がワークショップやイベントの開催、外部行事への参加を行うとともに、ふるさと納税の返礼品提供を行う等、様々な取り組みを通じて別府竹細工の認知度向上を図った。 また、市内宿泊施設に特別優待券を設置した他、海外からのツアーやホテル等でのイベントでワークショップを実施し、地域との連携による別府竹細工の普及にも取り組んだ。 ・産地組合と連携し、JR別府駅の駅前広場のモニュメントに竹のオブジェを設置した。	竹工芸訓練センター修生の市内就職者数	2人	5人	7人	140.0%	8人	9人	112.5%	11人	13人	118.2%	13人	17人	130.8%	15人	C	産地組合や竹工芸訓練センター等関係機関との連携の下、担い手の確保・育成に取り組んだことにより、竹工芸訓練センター修生の市内就職者については、目標を上回る人数となった。 開発した新製品の売上げについては、コロナ禍により令和2年度及び令和3年度の事業を中止し、継続的な情報発信ができなかったこと等により、平成30年度の売上個数を下回った。 宿泊施設等とのコラボ数及び竹細工伝統産業会館の入館者数については、竹細工伝統産業会館の指定管理者によるイベント等を通じた積極的な情報発信等の結果、目標の80%以上を達成しており、今後更なる改善が期待できる。 さらに、竹林の整備については、別府公園内の竹林及び令和元年度に整備した鑑賞用竹林の維持管理作業を継続して行っている。	
			竹細工新製品の売り上げ（個数）の伸び率	-	10%	-21%	-210.0%	20%	85%	425.0%	30%	-22%	-73.3%	40.0%	-9.2%	-23.0%	50%			
			竹製品（竹細工）と宿泊施設などとの新規コラボ数	-	2件	0件	0.0%	4件	3件	75.0%	6件	5件	83.3%	8件	8件	100.0%	10件			
			別府市竹細工伝統産業会館の入館者数	11,500人	12,080人	5,728人	47.4%	12,660人	8,153人	64.4%	13,240人	11,886人	89.8%	13,820人	13,406人	97.0%	14,400人			
			適正管理・整備された竹林の面積	0.5ha	0.9ha	0.9ha	100.0%	1.3ha	0.9ha	69.2%	1.7ha	1.4ha	82.4%	2.1ha	1.4ha	66.7%	2.5ha			
施策イ 観光筋力強化に向けた更なる取組	①別府版DMO 機能の強化	・B-biz LINKと連携し、海外セールスや海外・国内旅行会社との商談を実施した。 インバウンド版WebサイトやSNS広告配信による情報発信に取り組んだ。 ・訪日観光市場で活動する企業等と連携し、訪日旅行を取り扱う海外旅行会社に対して幅広いアプローチを行った。 ・タイ及び台湾をターゲット国として、インバウンド誘客事業を実施した。	別府版DMO 開発商品などの売上額	1,000千円	1,200千円	7,523千円	626.9%	100,000千円	72,771千円	72.8%	120,000千円	75,722千円	63.1%	140,000千円	62,672千円	44.8%	160,000千円	C	海外旅行会社や国内旅行会社との商談やアプローチ、タイ及び台湾をターゲット国とした誘客実施など、訪日客本格化に向けた取組が実施できた。	
	②観光戦略のデジタルファースト	・魅力ある情報を旅行前、旅行中の方に効果的かつタイムリーに発信し、来訪につなげる情報発信だけでなく、リピーター確保や滞在時間を伸ばすことを目的とする、充実した情報提供を行えるよう、別府市の総合観光ポータルWebサイト「別府たび」を運用。 ・「別府たび」は市公式観光LINEアカウント（お友達数：約1.6万人）や市公式観光Instagramアカウント（フォロワー数：約1.2万人）と連動し、特集記事、コンテンツ情報、イベント情報などを配信。Webサイトのアクセス分析を常に行い、アクセス属性分析だけでなく、発信したコンテンツごとや、ターゲットとするエリアなど属性からの反応を分析し、ターゲティングを行った配信コンテンツの検討や、広告配信も行うデジタルマーケティングの基盤として、戦略的なサイト運用を目指している。 ・インバウンド版WebサイトやSNSを通じた情報発信、デジタルマーケティング等の観光振興策に取り組んだ。	デジタルマーケティング対象国からの入込客数	2,498人	3,000人	0人	0.0%	3,500人	0人	0.0%	4,000人	0人	0.0%	4,500人	2051人	45.6%	5,000人	C	観光ウェブサイト「別府たび」のPV数も着実に伸びてきており、基本目標を達成するために効果はあったと考える。	

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	指標名	基本目標・重要業績指標（KPI）													自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)	
				現状値 (H30年度)	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度						R6年度 目標値
					目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度				
施策ウ 別府ブランドの構築 と飛躍によるひとの流れの拡大促進	①多様なシティプロモーションの強化	・別府市の魅力発信と来訪につなげるため観光パンフレットをリニューアルした。 ・株式会社明治との包括連携協定による「別府温泉腸活プロジェクト」関連事業として、市内民間施設等と連携したスタンプラリーやステイプランを実施した。 ・タイ及び台湾をターゲット国として、インバウンド誘客事業を実施した。 ・松山市と連携し、大阪モノレールで日本酒列車を運行。同市の特産品を使った弁当提供やのれんや中づりでのPR、観光物産展を開催した。 ・令和4年度にレンガホールに設置した別府市創造交流発信拠点「TRANSIT（トランジット）」において、別府市の文化・芸術情報や・観光客や移住希望者に向けた情報を発信し、世界中の人々に文化芸術のまちとして別府市を認識させるための情報発信事業を実施した。具体的には、別府市内の文化芸術イベント等の情報を国内・国外へ発信した。 ・移住を希望するアーティスト等からの相談に適切に対応した。 ・空き家・空き店舗をリノベーションし、アーティスト等が移住したいと思える制作環境の整備を進めた。	新規プロモーション事業数	-	2件	4件	200.0%	4件	4件	100.0%	6件	6件	100.0%	8件	12件	150.0%	10件	B	多様な取り組みが実施できた。 アーティスト・クリエイターが実施するイベント等を支援する事業を実施したことにより、市民だけでなく、アートの興味のある一定層の県内外住民に情報発信ができた。	
	②海外プロモーションの強化による別府の魅力の世界への情報発信	・B-biz LINKと連携し、海外セールスや海外・国内旅行会社との商談を実施した。インバウンド版WebサイトやSNS広告配信による情報発信に取り組んだ。訪日観光市場で活動する企業等と連携し、訪日旅行を取り扱う海外旅行会社に対して幅広いアプローチを行った。 ・タイ及び台湾をターゲット国として、インバウンド誘客事業を実施した。 ・現地に赴くことなくニューヨーク市ブルックリンのジュエリーショップにおいて8月と9月の2回、合計8日間、別府竹細工の展示販売を行うとともにショップのSNSでの情報発信を行った。	外国人向けホームページの閲覧数	16,588回	53,270回	37,365回	70.1%	89,953回	54,484回	60.6%	126,635回	103,329回	81.6%	163,318回	213,202回	130.5%	200,000回	B	海外旅行会社や国内旅行会社との商談やアプローチ、タイ及び台湾をターゲット国とした誘客実施など、訪日客本格化に向けた取組が実施できた。 現地ショップとの連携によりショップ顧客やバイヤー等に情報発信を行うことができた。	
施策エ ひとを呼ぶ新しい魅力の創出	①市民・学生大同窓会の開催	多国籍の食と文化イベントSpoon of Worldをピーコンプラザで実施するのに合わせて、東京（羽田）から大分までチャーター便を運航し、卒業生が別府に帰ってくる特別感を創出した。また、卒業生だけでなく在校生や市民などが多国籍の食や文化イベントを実施することでチャレンジショップや自国の文化を紹介することができた。また地元高校生や小中学生にもステージイベントに参加してもらうことで、地域住民との交流にも寄与した。	市内大学のOB・OGの参加者数	-	100人	12人	12.0%	200人	7人	3.5%	300人	228人	76.0%	400人	347人	86.8%	500人 (累計)	B	市民・学生大同窓会は卒業生等が再び別府に戻り、在校生や地域とのコミュニケーションが生まれる機会を行政の事業として開催するものである。メインとなる食と文化のイベントを実施することで、交流人口の流れを創った。地元住民と在校生、卒業生、企業などとの接点を創り、地域の活性化を図った。一定以上の効果があったと想定され、卒業生が別府に帰って来るための一助となった。	KPI①はイベント来場者7,800人の約2.9%（別府市の外国人留学生数の人口比率）が外国人留学生と想定し226人と仮定。チャーター便搭乗者延べ121人を総計し347人を概算実績値とした。 KPI②は起業創業支援事業であるONE BEPPU DREAM AWARDの企業数を目標値として設定しており、この事業はツーリズムバレーの1事業としてB-biz LINK主値の開業となったため実績値を記載していない。
		市民・学生大同窓会に参加した企業数	84社	100社	65社	65.0%	116社	74社	63.8%	132社	-	-	148社	-	-	164社				
	②ユニバーサルデザインに関連したイベントの推進	・市内小学校児童の「太陽の家ツアー」の実施	ユニバーサルデザイン関連の学習、イベントの参加者数	-	840人	0人	0.0%	840人	292人	34.8%	840人	363人	43.2%	840人	374人	44.5%	4,200人 (累計)	C	・市内小学校児童を対象とし「太陽の家ツアー」を実施することにより、子どもたちがユニバーサルデザインの必要性について学び、バラスボーツを体験するプログラムに参加でき、ユニバーサルデザインへの先進的な取組の一つのきっかけとする事業が実施できた。しかし、少子化による児童数の減少により「太陽の家ツアー」の対象である4年生の児童数が目標値(840人)を下回っている。そのため達成度もわずかではあるが、減少している。	来年度以降も児童数の減少が見込まれる。
	(再掲：1（エ）②) ③温泉を活用したビジネス展開の検討	・温泉に関する検証を深め、別府ONSENアカデミア等で情報発信した。 ・温泉が与える好影響についてのエビデンス取得を目指し、腸内細菌検査等を活用した温泉入浴の効果を検証する実証実験を行い、九州大学都市研究センターより分析結果を発表した。 ・株式会社明治との包括連携協定による「別府温泉腸活プロジェクト」関連事業として、市内民間施設等と連携したスタンプラリーやステイプランを実施した。 ・温泉入浴が心身にもたらす効果を調査し、エビデンスとなるデータを収集する「大計測会」を実施した。	温泉を活用した新たなビジネスのモノ・コトの商品化数	4件	5件	6件	120.0%	7件	6件	85.7%	9件	7件	77.8%	12件	11件	91.7%	16件	B	温泉が与える好影響についてのエビデンス取得を目指し、具体的な検証を実施し、検証結果を発表することができた。	
	④民間活力の導入を含む公園や海岸などの有効活用	【春木川公園整備運営事業】 西エリア整備に向けた事業者との協議 【上人ヶ浜公園整備運営事業】 地元説明会開催、事業者との協議	公園などの民間活力を導入した場合（施設設置・指定管理など）の利用者数	-	120,000人	222,441人	185.4%	140,000人	233,780人	167.0%	160,000人	405,032人	253.1%	180,000人	563,500人	313.1%	200,000人	A	すでにパークPFI事業により供用開始している公園においては、KPI達成度313.1%と大きく目標を上回った。 今後供用開始予定の春木川公園及び上人ヶ浜公園の整備については、事業の進捗を図るため地元住民への説明や事業者との協議を重ねた結果、令和6年度に工事着手の運びとなった。 今後も地域の課題解決と公園の高付加価値化による公園利用者の増加を目指す。	
	⑤様々なスポーツイベントの開催推進	・湯けむり健康マラソン大会実施。 ・別大毎日マラソン大会実施。 ・第13回九州地区小学生ミニバスケットボール交歓大会 ・べっぴん鶴見岳一気登山	スポーツツーリズム施策などによる誘客数	8,523人	-	0人	-	-	1,113人	-		6,862人			9,211人		11,000人	B	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより徐々に各種イベントも従来の様な盛況に戻りつつある。	
施策オ 「ツーリズムバレー構想」の推進 〔再掲：1（ア）〕	(再掲：1（ア）①) ①別府の観光産業に新たな風を吹かせる「起業・創業」の強力な推進	・会社設立支援補助金 交付決定 14名 ・創業支援事業補助金 交付決定 8名 ・スタートアップ都市推進協議会「ジャパンスタートアップセレクション」を開催。（※各地域のスタートアップ企業と全国の大手企業・投資家等との協業促進を目的としたビジネスマッチングイベント） 別府市からビジネスマッチング枠として、㈱クラフトマンシップ、Lost Item Delivery ㈱の2社が登壇。チャレンジ枠として、ONE BEPPU DREAM AWARDのファイナリスト1名が参画。	起業・創業件数	65件	67件	70件	104.5%	69件	76件	110.1%	71件	74件	104.2%	73件	81件	111.0%	75件	A	交流の機会、サポート体制、起業・創業を後押しするヒト・モノ・情報の供給などが少しずつ形になってきており、この数年間で起業・創業しやすい環境づくりが進んでいると考える。	
		・海外派遣プログラム「J-StarX」 経済産業省主催海外派遣プログラムを活用し、地域起業家をシリコンバレーに派遣。最先端のスタートアップ・エコシステムでの現場実地研修や現地キーパーソンと交流するプログラムを実施。別府市から上級コース2名、一般コースに7名派遣。 ※施策イ 別府市産業連携・協働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性化 取組①「B-biz LINK」との連携に記載した事業と連動	起業・創業相談対応件数	559件	564件	404件	71.6%	569件	520件	91.4%	574件	615件	107.1%	579件	778件	134.4%	584件			

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			R6年度 目標値	自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)
				(H30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度				
施策オ 「ツーリズムバレー 構想」の推進 〔再掲：1（ア）〕	（再掲：1（ア）②） ②別府に新たなビジネスを作り 出す人財、別府の観光産業を 担う人財の育成	・起業・創業支援事業（DREAM ACADEMY） セミナー5回開催 参加者68名 別府で、共に成長する継続的な「学び舎」となる場を構築し、視野を広く持つ目を磨き、事 例を共有することで、起業したい、事業を加速したい人を支援。 ・起業・創業支援事業（DREAM CAMP） 参加者17名 サポーター15名 学生を対象に、お互いがやりたい事を語る場を提供し、そこに社会人を加え、やりたい事の 実現に向けてアドバイス。そこで立てた目標を発表する「DREAM CHALLENGE」から、1件あたり 15万円のテストマーケティング費用を3組に提供。 ※施策イ 別府市産業連携・協働プラットフォーム「B-biz LINK」と連携した別府の活性化 取組①「B-biz LINK」との連携参照	大学などと連携して実施 した講座の受講者数	-	20人	0人	0.0%	20人	32人	160.0%	20人	252人	1260.0%	20人	85人	425.0%	200人 (累計)	A	リアルでの学びと交流の機会を数多く開催 できた。 特に上述のDREAM CAMPでは、学びだけでは なく、大学・金融・起業家・企業・行政と 学生が交流し、そこからビジネスのチャレ ンジをするという実践の機会までを創出す ることができた。	
	（再掲：1（ア）③） ③別府を応援してくれるヒ ト・企業とのつながりの強化	・BEPPU FAN TOWN コミュニティ参加数 FAN 506名 CHALLENGER 152名 MENTAR 62名 SUPPORTER 149社（R5. 3. 31時点） ・BEPPU FAN TOWN交流会 毎月第1火曜 14：00～16：00 開催 計9回開催、157名参加（うち1回は関東交流会：31名参加）	BEPPU サポーターズのメ ンバー数	-	30者	40者	133.3%	60者	62者	103.3%	90者	102者	113.3%	120者	149者	124.2%	150者 (累計)	A	「BEPPU FAN TOWN」開設以降、着々とコ ミュニティ参加数は増加している。また、 リアルな交流機会を創出することでツーリ ズムバレー構想の柱のひとつである「ヒ ト・企業とのつながり強化」につながって いる。	
施策カ 交流人口の定住人口 への転換	①ふるさと納税を入り口にし た関係人口の増加	令和5年度、新たに約180商品の返礼品を掲載開始した。旅行・観光等の体験型返礼 品や別府開催のイベントと連動した返礼品等を新たに増やした。 令和5年度の寄附額は約9億7千6百万円となった。	ふるさと納税の寄附件数	3,920件	5,525件	9,568件	173.2%	7,130件	16,443件	230.6%	8,734件	18,013件	206.2%	10,339件	24,058件	232.7%	11,944件	A	令和5年度はKPI達成度232.7%と、目標を大きく上 回った。より多くの寄附者層に向け、別府の魅力やPR することができた。 また、旅行・観光等の体験型返礼品の拡充によっ て別府への訪問機会を創出し、また、食品や物品の返礼 品の拡充に関しても、返礼品を通じて別府との繋がりを 感じていただくきっかけとなり、関係人口の増加に 繋がったと考えられる。	
	②移住の促進及び定着に向け た積極的な取組	本市の魅力を活かした移住を促進するため、主に以下の取り組みを行った。 ①おためし移住施設の運用を継続することで、本市での生活を体感する取り組み ②東京・大阪・福岡での個別移住相談会の開催 ③移住支援金を地域課題解決のための手段として活用し、公共交通の安定的な維持 するためのドライバー不足解消に取り組んだ	お試し移住施設利用者の うち 移住した者の数	4人	8人	0人	0.0%	8人	3人	37.5%	8人	5人	62.5%	8人	17人	212.5%	8人 (累計40 人)	A	近年の移住相談会の取り組みを強化し、移住計画 書を刷新するなど、別府市の魅力を移住希望者に 的確に情報提供することで、移住者の数も増加傾 向にある。また、移住相談会では、本市の移住相 談件数は県内の他市町村の中でも最も多く、相談 内容も総合戦略に基づきそれぞれの施策にいての 意見も聞こえてくるなど、その効果が現れ始めて おり、関係人口の創出につながっていると感じ る。 しかし、移住希望者の多くが高齢の方が中心で あることから、若者世代や子育て世帯の移住促進 に繋がる対策を取り組む必要がある。	
			移住に関する相談件数	254件	279件	100件	35.8%	305件	85件	27.9%	330件	106件	32.1%	356件	394件	110.7%	381件			
	（再掲：1（オ）④）④高齢者の 活躍促進	新型コロナウイルス感染症の影響により事業実績なし	マッチングイベントの参 加者数中の就業者数	4人	8人	-	-	12人	-	-	16人	-	-	20人	-	-	25人 (累計)	D	新型コロナウイルス感染症の影響により事 業実績なし	

基本目標3ひとの創生 ひとを大切にし、別府で子どもを産み、育て、生きる。

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	指標名	現状値	令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度		R6年度 目標値	自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 (実績値を算定できな い理由等)			
				(R30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値				実績値	達成度	
合計特殊出生率				1.40%		1.30%			1.26%			1.24%			1.39%		1.42%			
施策ア 時代とまちに即した 子育て支援の充実	①安心して子どもを預けられ る環境整備	・保育所の毎月の受入可能人数についてホームページ上で公開を開始し、より多くの入所につながるよう努めた。 ・保育所や認定こども園が翻訳通訳機器や保育業務支援システム等のICTを導入する際にかかる経費の一部を補助し、保育士の業務負担軽減や安全対策の強化、保護者の利便性向上を図った。 ・病児保育は、令和4年度まで唯一実施していた事業所が同年度限りで事業を中止したが、既存の保育施設等への働きかけの結果、令和5年度中に2事業所が事業を開始した。 ・預かり保育事業は、市内8施設で年間延べ59,456名の利用があった。 ・老朽化した私立保育施設の施設整備（保育所の増改築1か所、認定こども園の改築1か所）について、令和4年度からの繰越により令和5年度に一部補助を行い、令和5年度から利用定員の10名増員につながった。	保育利用決定率（10月1日時点）	94.3%	95.0%	94.9%	99.9%	96.0%	95.1%	99.1%		96.4%			97.4%		98.0%	B	保育所利用定員の増加、障害児保育の補助の拡充、病児保育の広域化など、子育て世帯が安心して働けるようにするため、保育ニーズに対応した保育サービスの提供に取り組むことができた。	
	②子育て世帯の経済的負担の 軽減	【令和5年度】 食費等物価高騰の影響を受けたひとり親世帯と低所得の子育て世帯を支援するため、別府市低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を支給しました。さらに、エネルギー・食料品価格高騰の影響を受けている子育て世帯を支援するため、別府市子育て応援支援金を支給しました。 幼児教育・保育無償化及び大分にこにこ保育支援事業による認可外保育施設の保育料軽減の実施については、保育施設の協力も得ながら対象保護者への周知を行った。 物価高騰対策として令和4年10月から開始した認可外保育施設を含め保育施設を利用する園児の給食費補助事業について、令和5年度からは対象を3歳児以上に拡大して実施した。	「おおいた子育てほっとクーポン」利用率	57.5%	60.0%	55.0%	91.6%	60.0%	60.0%	100.0%	65.0%	61.0%	93.8%	65.0%	82.0%	125.7%	70.0%	A	・低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金を支給することにより貧困対策を行うことができた。さらに、物価高騰の影響を受けている子育て世帯に対し、別府市子育て応援支援金を支給することにより安心できる生活を支える体制づくりに寄与した。 ・給食費負担軽減事業について、対象を拡大して実施し、より効果を上げることができた。	
	③妊娠期から子育て期までの 切れ目ない支援	令和5年4月に開設したこども家庭センターにて、児童福祉部門と母子保健部門が一体的に妊娠・出産・育児に係る相談に対応し、連携して妊娠期から子育て期まで連携して支援を行った。妊娠・出産・育児に係る相談に保健師、助産師が対応し、関係機関や関係部署と連携して必要な支援につなげた。 育児相談来件件数：令和5年度 230件/年 妊娠届出時にすべての妊婦またはその家族と面接をするともに、生後概ね4か月頃までにすべての家庭に訪問する「赤ちゃん訪問」を実施し、各家庭の状況に応じて必要な指導や支援を行った。「赤ちゃん訪問」では、家庭訪問の拒否や長期里帰りの家庭などについては、こども家庭センターでの対面や里帰り先への訪問依頼を行うなどして家庭の状況把握に努めた。 ・妊娠届出件数：令和5年度 560件 ・赤ちゃん訪問件数：令和5年度 590件 子ども家庭総合支援拠点事業の拡充分を社会福祉法人（児童福祉団体）に委託することで、専門的知見に基づく支援体制及び夜間、休日、年末年始の相談支援体制を強化した。	赤ちゃん訪問の実施率 （当該年度中の訪問実施数/当該年度中の出生数）	96.2% (H28～30年度の平均値)	96.9%	95.0%	98.0%	97.6%	99.6%	102.0%	98.3%	93.8%	95.4%	99.0%	99.5%	100.5%	100.0%	B	妊娠届出時の面接や赤ちゃん訪問などの母子保健事業や妊産婦などからの相談で把握した継続的な支援の必要な家庭については、関係機関等と連携して支援を行った。こども家庭センターの開設により、児童福祉部門と一体的に支援を行うことができるようになったため、よりタイムリーで継続性のある支援を行うことができている。	
	(再掲：1(オ)②) ④仕事と子育ての両立ができる 社会の実現	9月15日を含む1週間を別府市男女共同参画週間と定めて様々な啓発活動を実施している。この期間に市民への啓発としてフォーラムを開催している。 日時 令和5年9月15日（金） 場所 ビーコンプラザ 国際会議室 講師 NPO法人東京レインボープライド共同代表理事 杉山 文野氏 議題 はじめてのLGBTQ+性の多様性と人権～ 男女共同参画事業や女性の活躍推進については、事業所や地域でのジェンダー平等の視点で見直す意識啓発を推進するため街頭啓発や啓発誌「あすてっぷ」、ホームページ、公式SNSなどで情報発信を行うとともに、内閣府及び別府市の男女共同参画週間において、キャンペーン等で市民へ直接呼びかけ啓発を行った。	女性の参画を推進する啓 発講座参加者数	275人	500人	0人	0.0%	530人	0人	0.0%	560人	120人	21.4%	590人	100人	16.9%	600人	C	男女共同参画センターの空調工事のため12月まで休館だったため、主催講座が開催できなかったが、啓発誌やSNSを活用し固定的役割分担意識を見直す啓発や、女性が働きやすい職場を作るための休暇取得、男性の育児休暇取得についてなどを情報提供をすることができ、今後も講座やイベント等を通してジェンダー平等の意識を図って行きたい。	
施策イ 全ての子どもを育む 環境の充実	①子どもの安全安心の確保	・いじめの防止、早期発見、対処 【いじめ解消率】令和5年度 小：71.4% 中：87.5%（問題行動調査より） ・児童虐待対策 校長会議等において児童虐待が疑われる児童生徒を発見した場合の対応等を具体的に伝えた。 また、子育て支援課と連携し、事案対応の協議や情報共有を速やかに行った。 ・子どもの貧困対策 中学校3校に学習支援教員を配置し、経済的困難を抱える児童生徒に対する学習支援体制づくりを推進した。 ・登下校時の見守り活動（ボランティアの活用など） 別府市青少年補導員協議会補導員による子どもへの声かけ実績：令和5年度1304人 ・インターネットの利用に関する注意喚起 インターネット利用に関するアンケートを実施し、「家族との約束」づくりやネットトラブル回避に向けた生徒会活動等の取組を推進した。 ・防犯教育の実施 各小学校でCAPの取組を行った。	地域の見守りによる、放 課後などの子どもへの声 かけ人数	1,108人	1,108人	857人	72.6%	1,260人	855人	67.9%	1,340人	1,272人	94.9%	1,420人	1304人	91.8%	1,500人	C	いじめの未然防止として推進している「人間関係づくりプログラム」の取組推進により、認知件数総数は減少した（R4:1150件→R5:997件）。今後もいじめ防止基本方針に基づき、未然防止、早期発見の取組と組織的対応を行う必要がある。 児童虐待（疑いを含む）事案認知後、関係機関と連携した迅速で適切な対応がとれるようになった。 登下校時の見守り活動については、別府市青少年補導員協議会補導員が行っている。地域の方から見守られ、安心した生活が送れるまちづくりができていると考える。 インターネット利用に関し、オンラインゲームやSNS上でのネットトラブルが見られるため、情報モラルに関する指導を行う必要があると考える。 防犯教育についてCAPの取組を行うことにより、自ら安全を確保する力の育成ができたと考える。	
			インターネット使用上の 家族との約束設定率（小 学生）	77.6%	80.0%	81.6%	102.0%	82.5%	80.7%	97.8%	85.0%	81.3%	95.6%	87.5%	65.6%	75.0%	90.0%			
			インターネット使用上の 家族との約束設定率（中 学生）	62.3%	66.0%	77.7%	117.7%	69.5%	69.9%	100.6%	73.0%	67.7%	92.7%	76.5%	71.8%	93.9%	80.0%			
	②子どもの健康促進	(健康推進課) むし歯予防のために、別府口腔保健センターにて希望者が無料でフッ素塗布できる体制を整えている。また、乳幼児健康診査にて、歯科検診及び歯科指導を行い、むし歯の早期発見や予防に努めた。 ・1歳6か月児健康診査受診率：令和5年度 96.6% ・3歳5か月児健康診査受診率：令和5年度 95.9% 小4年生、中学2年生を対象に、『児童・生徒の生活習慣病予防健診』を実施し、肥満をはじめ、生活習慣病の予防、早期発見に努めている。 ・児童・生徒の生活習慣病予防健診受診率（小4）：令和5年度 60.6% （中2）：令和5年度 58.6% 小児救急医療や夜間こども診療を行い子どもの急病などの救急時でも診療を受けやすい環境を整備した。また、『小児救急ハンドブック』を赤ちゃん訪問時に配布し（第1子の家庭）、家庭での救急時の対応について、普及啓発に努めた。 ・小児救急受診件数：令和5年度 178件（大分県厚生連鶴見病院） ・夜間子ども診療受診件数：令和5年度 3,417件 (学校教育課) ・「小4・中2の健康チェック」について、健康推進課と連携し、受診率の増加に取り組んだ。 ・「早寝、早起き、朝ごはん」などの基本的な生活習慣の定着を図るため、保健だより等で保護者への啓発に取り組んだ。 ・幼稚園、小学校、中学校でフッ化物流洗を実施した。	3 歳児のむし歯保有率	15.7%	15.4%	14.2%	107.8%	15.1%	15.1%	100.0%	14.8%	13.5%	100.0%	14.6%	10.5%	139.0%	14.4%	B	(健康推進課) 別府市は、母子健康手帳交付時に歯の手入れ、歯科健診の必要性について丁寧に説明しており、その影響もあって、幼児歯科健診の受診率が高く、保護者の歯科保健に対する意識の向上によりむし歯保有率の低下に効果を表している。 (学校教育課) 肥満傾向児の増加は、新型コロナウイルス感染症による運動量の減少や、食生活の乱れ、スマートフォン・タブレットの使用時間の増加による生活習慣の乱れの影響が考えられる。今後も取組を継続したい。	
			小5 肥満傾向児童の割合	12.8%	12.0%			11.5%	14.3%	80.7%	11.0%	14.2%	77.5%	10.5%	16.8%	62.5%	10.0%			
			中2 肥満傾向生徒の割合	11.4%	11.0%			10.5%	12.3%	85.4%	10.0%	13.4%	74.6%	9.5%	11.6%	81.9%	9.0%			
③地域の子育て力の強化	【令和5年度】 会員数：651人（おねがい会員472人、まかせて会員166人、同会員13人） 活動件数：968件 子どもたちの支援に関わったボランティア活動のべ人数：6101人 学習機会の提供（年間7講座1大会）参加のべ人数：613名	別府市ファミリー・サポート・センター登録者数（「まかせて会員」数）	188人	188人	172人	91.5%	188人	156人	83.0%		156人			651人		208人	B	まかせて会員数及び活動件数を、昨年度実績よりも増加させることができた。 引き継ぎ、制度の周知と利用促進を図り、会員数の増加に務める。 コロナ禍でボランティア数が大幅に減少していたが、少しずつ実績が増加してきた。より多くのボランティア活動の協力が得られるように、事業の周知を図るとともに、活動の意義を伝える取組が出来た。		
		「まかせて会員」の活動件数	337件	337件	405件	120.2%	337件	804件	238.6%		720件			968件		372件				
④子どもの居場所の確保	・乳幼児親子対象の行事、小学生対象の行事を実施するとともに乳幼児を持つ母親のための勉強会を開催したり、児童館に向くことができない親子の送迎サービスを実施した。 ・近隣の小学校や放課後児童クラブとの連携をとる中で、児童の興味のある遊びをリサーチして児童館の遊びに取り入れたり、行事の準備段階から児童を中心に実行委員会を設けて行事を運営したことが来館者の増加に繋がった。 ・地域の自治会や小学校、中学校、交番、公民館、こども会、母親クラブ等との連携を図りながら運営にあたった。 ・地域住民の方に行事に参加してもらうことで、地域との交流ができた。 ・市内7公民館で以下を実施 生活体験・自然体験に関する講座：114講座・世代間交流を目的とする講座：29講座 子ども参加のべ人数：1472人 ・子どもたちの補充学習の機会（放課後トライ）：225回 子ども参加のべ人数：3449人	児童館施設利用者数	46,667人	47,000人	30,982人	65.9%	47,000人	39,344人	83.7%		39,572人			51,731人		47,000人	B	・小学生を対象にした行事が多いが、午前中に利用が多い乳幼児親子への行事の取り組みも工夫していききたい。 ・より多くの子どもたちが参加できる工夫に積極的に取り組む必要性を感じている。今後の取り組みに繋げていきたい。		
		放課後学習ひろばを利用する 子どもの数	1,936人	2,000人	958	47.9%	2,050人	1,772人	86.4%	2,100人	3,510人	167.1%	2,150人	3,449人	160.4%	2,200人				
		地区公民館などでの教育、体験活動などの子どもの参加者数	3,053人	3,100人	1,235人	39.8%	3,200人	1,831人	57.2%	3,300人	1,922人	58.2%	3,400人	1,899人	55.9%	3,500人				

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	基本目標・重要業績指標（KPI）															自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 （実績値を算定できな い理由等）
			指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			R6年度 目標値			
				(H30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度				
施策イ 全ての子どもを育む 環境の充実	⑤安全でおいしい学校給食の 提供	【令和5年度】 ・別府市学校給食センター開設 ・別府市食物アレルギー対応給食調理場開設 ・調理等従事者へ衛生管理研修実施 ・市産品活用の推進 ・試食会の開催 ・視察の受け入れ、児童、生徒の見学の受け入れ ・学校図書とのコラボ給食（絵本に出てくるメニュー等）のレシピ考案 ・給食のレシピを掲載したInstagramの投稿 ・児童、生徒が栄養教諭と授業の中で考案したメニューの提供 ・子どもたちのリクエスト給食の提供	学校給食生徒（中学校）1 人当たりの1日の残菜量	40.0g	40.0g	40.2g	99.5%	40.0g	38.3g	104.3%	30.0g	45.0g	50.0%	-	-	-	20g	E	計測方法に相違があるため、KPIの設定を 見直す必要がある。 環境省がデータを有する食べ残し量や、あ るいは子どもたちが美味しいと感じている かの評価指標を定める必要がある。 各学校でアンケート調査をおこない、満足 度を明らかにしたい。評価を数値で表すこ とができ、質問の設定によっては多角的な 分析が行える点など、実施することのメ リットは大きいと感じる。	令和5年9月に学校給食セ ンターが新設されたことに より、これまでの単独調理 場（小学校幼稚園13カ所） と共同調理場（中学校、東 山幼小中学校）の調理体制 から学校給食センター1カ 所での調理体制となり、調 理残菜量の測定方法が変更 した。具体的には、これま では水分を絞った後の残菜 を測定していたが、学校給 食センターでは水分も残菜 として測定するための比較が できない。 （参考：食べ残し量 全国 平均7.1kg・別府市6.3kg）
		学校給食児童（小学校）1 人当たりの1日の残菜量	20.0g	20.0g	18.2g	109.0%	20.0g	17.9g	110.5%	20.0g	14.0g	130.0%	-	-	-	20.0g				
	⑥教育環境の整備	・部活動指導員活用事業の推進 前年度から継続のサッカー（3）・合唱・陸上競技・バスケットボール（2）・ 吹奏楽・ラグビー・軟式野球の10名の部活動指導員に加え、バスケットボール （2）2名の指導員を配置した。また、民間企業へ部活動指導者の派遣を委託し、 ソフトテニス（3）・卓球（2）・バレーボール（3）・吹奏楽・バスケットボ ール・軟式野球の11名の指導員を配置した。 ・学校教育におけるICTの活用の推進 児童生徒1人1台の学習用タブレット端末整備は完了している。授業内や家庭学習 での活用も進みつつある。	部活動指導員数	5人	8人	6人	75.0%	10人	8人	80.0%	12人	21人	175.0%	15人	23人	153.3%	18人	A	・部活動指導員活用事業の推進 前年度からの継続の10名は、校長推薦 を得ての継続配置だった。令和5年度は、 各中学校のニーズにより、校長の求める 適任者を新規採用することができた。ま た、令和5年度も民間企業に部活動指導を 委託し、学校、保護者、生徒からも高評価 を得ることができた。 ・学校教育における活用の推進 児童生徒1人1台の学習用端末の整備が完 了し、活用した授業を行う学校も増えてい る。	
学習者用コンピューター 整備率			7%	33%	100%	100%	56%	100%	100%	78%	100%	128.2%	100%	100%	100.0%	100%				
ICTを活用した授業を週1 回以上行っている学校の 割合 （全国学力・学習状況調 査質問紙）			84% (R1)	87.0%			90.0%	71.0%	78.9%	93.0%	57.0%	61.3%	96.0%	96.0%	100.0%	100.0%				
施策ウ 別府の未来をつくる 人材の育成	①国際人材の育成強化	延べ11回の国際理解教室を実施した。 内訳は、高校が延べ4回、児童館が延べ3回、支援学校が延べ2回、児童クラブが2回 であった。 参加生徒数は、延べ227人。 内訳は、高校生が延べ90人、支援学校が19人、幼稚園生～小学生が計118であった。 派遣した外国人留学生は延べ60人。 1回あたりの派遣人数は約7人。	国際理解教室の参加者数	1,303人		783人			234人			569人			227人		1,400人	B	H30年度の現状値1,303人（指標アンケート結果： 64.7%）、R6年度の目標値1,400人（指標アン ケート結果：70%）であるが、R5年度について、 実績値は227人である。 別府市教育委員会が小中学校対象に独自の国際理 解授業を始めたことにより、実績値が低くなった ものがあるが、実施団体に対し行ったアンケート 結果の評価は高く、実績成果として十分評価でき るものであると評価している。	
			外国の人と友達になつたり なりたいたい、外国のこと についてもっと知りたい と思う児童生徒の割合	64.7% (R1)	66.0%	85.7%	129.8%	67.0%	90.2%	134.6%	68.0%	84.2%	123.8%	69.0%	95.6%	138.6%	70%以上			
	②郷土に関する学習「別府 学」の実施	・総合的な学習の時間、特別活動、各教科において「別府学」学習資料を活用した 別府学を全学年において5時間以上実施するよう指導した。 全学年で5時間以上別府学を実施できた学校の割合は100%だった。 小学校での年間平均実施時間は1.4時間、中学校では1.2時間だった。	郷土別府に対して誇りや 愛着を持っている生徒の 割合	-	50.0%			55.0%	31.0%	56.4%	60.0%	86.0%	143.3%	65.0%	86.0%	132.3%	70%以上	B	別府学の取組が各学校に定着してきた。各学校 における取組内容を紹介し、取組を広めることと 併せて各学年5時間以上の実施を継続することが 必要である。	
			③子どもの教育の質の更なる 向上	・全国学力・学習状況調査で全国平均正答率を上回った（同率含む）項目数：5項目 中1項目（20%） 大分県学力定着状況調査で偏差値50を上回った項目数：16項目中16項目 （100%） 別府市学力調査で平均正答率を上回った（同率含む）項目数：44項目中38項目 （86%） 学力向上プラン（8月版・2月版）を作成し、PDCAサイクルを確立するよう指導 した。 ・学校運営協議会（学力向上会議）においてプランを提示し意見と協力をもらい、 取組の評価・改善に つなげるよう指導した。 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査で総合評価C以上の児童生徒の割合が全国 値を上回った項目数 ：4項目中4項目（100%） 体力向上プランを作成し、PDCAを年間1サイクル以上実施した校数：21校中21 校（100%） 各学校で体力向上プランを作成し、学期毎に効果の検証と取組内容の見直しを指 導した。	全国学力・学習調査にお ける 平均正答率が全国平均以 上の教科数	3教科 小学校1/2 教科 中学校2/3 教科	4教科			4教科	1教科	25%	6教科	1教科	16.7%	3教科	1教科	33.3%	全教科全 国平均正 答率以上	B
	全国体力・運動能力調査 における総合評価C以上の 児童生徒の割合（小5 男子）	76.9%			78.0%			79.0%	81.1%	102.7%	80.0%	76.9%	96.1%	81.0%	73.6%	90.9%	82.0%			
	全国体力・運動能力調査 における総合評価C以上の 児童生徒の割合（小5 女子）	80.9%			82.0%			83.0%	87.2%	105.1%	84.0%	79.3%	94.4%	85.0%	81.3%	95.6%	86.0%			
	全国体力・運動能力調査 における総合評価C以上の 児童生徒の割合（中2 男子）	72.5%			74.0%			75.0%	69.5%	92.7%	76.0%	64.2%	84.5%	77.0%	68.8%	89.4%	78.0%			
(再掲：1 (ウ) ①) ④大学などと連携した本市の 産業を担う人材の育成	市内各大学と定期的な意見交換等は実施。 （※教育機関のカリキュラムに組み入れるなどの効果的・効率的な育成スキームの 構築には至っていない）	旅館・ホテル業の人材派 遣登録者数	-	50人	-	-	100人	-	-	150人	-	-	200人	-	-	250人	E	市内のホテルや旅館の人材不足対策を目的 として、令和元年度に宿泊業就労支援事業 を実施し、その後も継続の予定としていた ことから指標として掲げていた。令和2年 度はコロナ禍に伴い、宿泊事業者、求職者 とも利用ニーズがなく、事業は2年度で終 了している。		
施策エ 男女が出会える環境 整備	①男女が出会える機会の創出	今年度は2回婚活事業を実施することができ、バスでのスポーツ観戦など新たな試 みを行うことができた。 【1】 野球観戦 バスコンツアー（PeyPeyドーム） 開催日 令和5年8月20日（日） 参加者 男性19名 女性15名 合計 34名 結 果 10組成立 【2】 ペっぶ秋コンパ（別府市内） 開催日 令和5年11月26日（日） 参加者 男性24名 女性22名 合計 46名 結 果 6組成立	男女が出会う機会を創出 するイベント参加者数	144人	160人	0人	0%	170人	0人	0%	180人	53人	29.4%	190人	101人	53.2%	200人	C	今回初のスポーツ観戦ツアーでの婚活を開 催したが、参加者のアンケート結果からも 概ね高評価を得ることができ、同じ趣味を 持つ等体験型の事業に興味が高いように思 われる。 また募集期間中、各年齢層の方からの問 い合わせやそのご家族、市内以外の方から の問い合わせもあり関心の高さを感じた。	

基本目標 4 まちの創生 ひととまちをまもり、地域と地域が連携する。

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	基本目標・重要業績指標（KPI）															自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 （実績値を算定できな い理由等）
			指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			R6年度 目標値			
				(H30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度				
社会増減				52人減		1,085減			460減			1,202増			593人増		40人増			
施策ア 生活の質の向上実現 に向けた整備	(再掲：2（ア）⑤） ①地域公共交通の利便性向上	別府市公共交通活性化協議会を4回開催し、市内交通体系について協議した。 東山地区、大所・小坂地区にて乗合タクシー事業実施。 別府市コミュニティバス内成棚田線の実証運行を継続。 夜間における移動手段の確保のため、ナイトバスを運行した。	人口一人当たりの年間公 共交通（鉄道・バス）利 用回数	84.2回	85.0回	56.6回	66.6%	85.7回	56.1回	65.5%	86.5回	70.8回	81.8%	87.2回	74回	84.9%	88.0回	B	依然とした乗務員不足による減便や利用者の減少はあるものの、新型コロナウイルスが5類に移行したことにより人の移動も徐々に増え、夜間の移動手段の確保及び外出促進に繋げるためのナイトバスの運行をしたこと等の理由により、一定程度の利用の増加がみられた。	
	②誰にもやさしい道づくりの 促進	歩道の段差解消等については、令和3年度に関係者と行った現地合同調査をもとに、改善が必要な個所の設計、工事を実施した。また、引き続き市のホームページにおいても通報システムの利用方法を掲載し、利用促進に努めた。 歩道や道路の改良等工事については下記のとおりである。 ・道路整備工事 5件 ・道路維持補修工事 63件 ・通報システム件数／全通報件数 2555件／3,192件	全要望件数に対するICT を活用した投稿での解決 率	1.6%					5.1%			16.8%			7.9%		10.0%	B	歩道の段差解消工事については26箇所、通学路の歩道拡幅工事については1路線を実施したことにより、障がい者団体の方からは「車いす等でも通りやすくなった。」、児童や保護者からは「安全に通学できるようになった。」などの声が寄せられている。 しかし市内の道路には、まだ数多くの障壁（段差等）があり、危険な通学路も存在していることは把握している。引き続き調査、検討を行い優先順位等を勘案しながら、安心安全な道路環境の整備を図ってきたい。 国からの交付金・補助金を活用した道路整備事業等についても5路線において段差解消、舗装改修工事等を実施しており、誰もが安心して安全に通行できるような道路環境の整備を行っている。 通報システムについて、令和5年度は、令和6年度目標値10.0%に対し実績値が7.9%と目標値を下回った。令和6年度は、新たな通報システムの運用を開始し、市報等で広報し、利用促進を図り、市民生活の質の向上に寄与できるよう活用していきたい。	
	(再掲：2（エ）④） ③民間活力の導入を含む公園 や海岸などの有効活用	【春木川公園整備運営事業】 西エリア整備に向けた事業者との協議 【上人ヶ浜公園整備運営事業】 地元説明会開催、事業者との協議	公園などの民間活力を導 入した場合（施設設置・ 指定管理など）の利用者 数	-	120,000人	222,441人	185.4%	140,000人	233,780人	167.0%	160,000人	405,032人	253.1%	180,000人	563,500人	313.1%	200,000人	A	すでにパークPF事業により供用開始している公園においては、KPI達成度313.1%と大きく目標を上回った。 今後供用開始予定の春木川公園及び上人ヶ浜公園の整備については、事業の進捗を図るため地元住民への説明や事業者との協議を重ねた結果、令和6年度に工事着手の運びとなった。 今後も地域の課題解決と公園の高付加価値化による公園利用者の増加を目指す。	
	④ 遊休公有財産（土地・建物 など）の有効活用	・遊休公有財産の有効活用については、計画5件に対し、土地の売却が1件、新規の長期貸付は4件であった。長期貸付4件のうち2件は、未利用資産活用計画の対象であった。 ・市役所庁舎中庭の有効活用については、キッチンカーの参加数が増加し、定例的な市民コンサートの開催等を行うことで引き続き賑わいの場創出を行った。 ・旧朝日出張所跡地については、地元説明会を開催。公募型プロポーザルを実施した。	公有財産の有効活用件数	25件	5件	1件	20%	2件	4件	200%	9件	4件	44.4%	5件	4件	80.0%	46件 （累計）	B	令和5年度は利活用計画外の土地の売却1件、新規の長期貸付も4件あり、単年度目標値は達した。 取組を行うなかで、市営住宅については現入居者の退去状況がその後の利活用に大きく影響している。引き続き進捗管理を行いながら、利活用方針に基づき早期の売却等に向けて取り組みたい。 また、利活用の方法として、建物の集約や用途変更による有効活用を図れるよう関係課と協力して行く必要がある。	
	⑤市街地を中心としたにぎわ いの創出	・商店街に各種補助金を交付し、商店街活性化に資する事業を円滑に実施できるよう支援した。 ・事業承継に関する個別相談会を継続的に開催した。	空き店舗などのマッチン グ件数	-		0件	0%		0件	0%		0件	0%		0件	0%	25件 （累計）	C	マッチングには至らずKPIは未達成だが、市街地を中心としたにぎわいの創出には効果があった。	
施策イ 世界一のユニバーサル デザイン都市への挑戦	①誰にもやさしい施設整備の 促進	【ユニバーサルデザインマップ】 高齢者や障がいのある方、小さな子ども連れの方など、誰もが安心して外出する手助けとなるように、大分県内の各種施設について、利用に配慮した設備に関する情報を掲載した大分県保健企画課が運用している「大分バリアフリーマップ」の周知並びに登録数の増加を図るため、「大分バリアフリーマップ」を市公式ホームページにて令和元年度以前から継続して公開しました。 また、別府・大分バリアフリーツアーセンターが障がいのある観光・旅行客向けに発信している、市内の観光地、ショッピング、飲食店、温泉、公園、交通機関などのバリアフリー情報についても併せて市公式ホームページにて令和元年度以前から継続して公開しました。 【赤ちゃんの駅】 令和5年度末での登録施設数は35か所。	バリアフリーマップ登録 数	468か所	600か所	639か所	106.5%	600か所	640か所	106.7%	600か所	-	-	600か所	-	-	600か所	A	【ユニバーサルデザインマップ】 令和3年度におけるバリアフリーマップ登録数は640件であり、最終年度のKPIをすでに達成しましたが、最終年度までにこれを下回らないよう留意し、また、登録施設が中心市街地に集中的に分布しているため、登録分布の広域化と登録数の更なる増加を図る必要があると考えています。 【赤ちゃんの駅】 令和4年度末の33か所から2か所増えて、令和5年度末に35か所となり、令和6年度目標件数の35か所を達成した。引き続き、赤ちゃんの駅として協力いただける事業所等を募ります。	バリアフリーマップは県事業であるが、令和5年度に本マップ（Webサイト）を更新してから、現在において正確な集計ができない状況のため。 ※令和5年度から「バリアフリーマップ」は「ユニバーサルデザインのマップ」へと名称変更される。
		「赤ちゃんの駅」の登録 数	30か所		30か所			32か所			33か所			35か所		35か所				
	(再掲：4（ア）②） ②誰にもやさしい道づくりの 促進	歩道の段差解消等については、令和3年度に関係者と行った現地合同調査をもとに、改善が必要な個所の設計、工事を実施した。また、引き続き市のホームページにおいても通報システムの利用方法を掲載し、利用促進に努めた。 歩道や道路の改良等工事については下記のとおりである。 ・道路整備工事 5件 ・道路維持補修工事 63件 ・通報システム件数／全通報件数 2555件／3,192件	全要望件数に対するICT を活用した投稿での解決 率	1.6%					5.1%			16.8%			7.9%		10.0%	B	歩道の段差解消工事については26箇所、通学路の歩道拡幅工事については1路線を実施したことにより、障がい者団体の方からは「車いす等でも通りやすくなった。」、児童や保護者からは「安全に通学できるようになった。」などの声が寄せられている。 しかし市内の道路には、まだ数多くの障壁（段差等）があり、危険な通学路も存在していることは把握している。引き続き調査、検討を行い優先順位等を勘案しながら、安心安全な道路環境の整備を図ってきたい。 国からの交付金・補助金を活用した道路整備事業等についても、5路線において段差解消、舗装改修工事等を実施しており、誰もが安心して安全に通行できるような道路環境の整備を行っている。 通報システムについて、令和5年度は、令和6年度目標値10.0%に対し実績値が7.9%と目標値を下回った。令和6年度は、新たな通報システムの運用を開始し、市報等で広報し、利用促進を図り、市民生活の質の向上に寄与できるよう活用していきたい。	
③こころのバリアフリー化・ ユニバーサルデザインの促進	「差別をなくす市民の集い」映画上映会で全国水平社創立100周年記念映画「破戒」を上映した。	「差別をなくす市民の集 い」への参加者数	369人		92人			48人			241人			333人		400人	C	市報の特集号等で広く周知し、文書や電話、ファックスで募集を行った。今回からは電子メールでの応募にも対応し、参加しやすくなることで多くの方に人権問題に触れていただく機会を提供できた。		

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	基本目標・重要業績指標（KPI）															自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 （実績値を算定できな い理由等）
			指標名	現状値 (H30年度)	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			R6年度 目標値			
				目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度					
施策ウ 市民を第一にした行政サービスの実現	①市役所の窓口を始めとした行政サービス改革の実行	・LINE公式アカウントの活用を拡充（「ゴミ収集カレンダー」や「子育て」のチャットボットの開始など） ・順番待ち管理システムを、マイナンバーカード・マイナポイント申請サポート窓口、児童扶養手当申請窓口、エール券販売会場、保育所入所申込窓口、市民税申告会場で活用 ・ひとまより・まちまより協議会との協働で、高齢者向けスマホ講座を実施 ・介護保険情報共有システムの導入（介護保険情報提供のクラウド化） ・重度身体障がい者タクシー券の交付が、窓口のみから郵送での交付も可能となった。（前年度申請済みの方対象） ・各種申請書の電子申請対応や郵送での対応 ・おくやみコーナーによる窓口一本化 ・マイナンバーカードを活用したコンビニでの証明書交付 ・マイナンバーカードを活用した、市民課窓口での申請書サポートシステムの導入 ・びったりサービスによる不在者投票用紙請求や罹災証明のオンライン申請 ・社会教育施設や市営温泉、一部体育施設での利用料金、市民課・市民税課での証明発行手数料（一部除く）のキャッシュレス決済対応	改革による窓口滞在削減時間数	-	1,800時間	4,050時間	225.0%	5,800時間	4,885時間	84.2%	9,800時間	6,925時間	70.7%	15,300時間	6,622時間	43.3%	18,000時間 （累計）	C	窓口での待ち時間をスマホで確認できる「順番待ち管理システム」でのサービスや、マイナンバーカードを活用したコンビニでの証明書の交付は、削減時間には表れていないが、市民の利便性の向上につながっている。 デジタルを活用することで、市民の利便性の向上とともに、職員の事務負担の軽減にもつながり、よりきめ細かなサービス提供につながっている。	
	②市役所の業務改革の実行	・WEB会議の推進 ・令和4年度にBE-X（変革するためにデジタルの活用を実践するチーム）を立ち上げ、職員の業務負担軽減に繋がる活動（動画マニュアルの公開、「UDフロント」使用の推奨）を実施 ・DX人材育成としてBE-Xのメンバーを対象にオンライン動画学習サービスを使用 ・RPA、AI-OCRの活用による業務時間の削減 ・個人認証及びオンライン決済サービスを備えたLINE電子申請を導入 ・タブレット端末導入による書類のペーパーレス化 ・国の提供する「びったりサービス」（マイナンバーカード利用）や、LoGoフォーム利用の推進	改革による業務削減時間数	-	50時間	8,694時間	17388.0%	170時間	10,042時間	5907.1%	290時間	6,720時間	2317.2%	310時間	6,809時間	2196.5%	535時間 （累計）	A	デジタルファースト推進計画に基づき、概ね継続的に取組はできている。RPAやAI-OCRの活用により、職員の大幅な業務負担軽減に繋がっていると思われる。 タブレット端末の導入によるペーパーレス化の推進により、業務時間の削減だけでなく、電子媒体となることで業務スペースの確保や資料の検索の迅速化にも繋がり、業務改革の推進に一定の効果があった。	
施策エ 行政サービスの実現に向けた財源の確保	①新たな財源を活用した取組の強化	・入湯税の超過課税分について ①温泉資源の保護、確保、②観光客の快適性確保（ストレスフリー）、③観光客の安全・安心の確保、④観光客を増加させるための事業推進（魅力あふれる温泉地づくり）、⑤観光客の受入体制の充実、にかかる事業を実施。 令和5年度の入湯税は全体額535,312千円。うち、入湯税超過課税分は200,048千円であった。 ・クラウドファンディングについて 令和5年度実績なし。 ・企業版ふるさと納税について 企業版ふるさと納税は、3社から計34,300,000円の寄付をいただいた。	企業版ふるさと納税の寄附金額	-		0円		11,500,000円				256,900,000円			34,300,000円		300,000,000円	B	入湯税超過課税分については、5本柱の事業を着実に実施することができた。 クラウドファンディングについては、検討は試みたものの募集期間の短さなどがあり、ふるさと納税での募集としたものがある。引き続きクラウドファンディングでの募集に適した事業の情報収集を行っていく。 企業版ふるさと納税については令和3年度より総務省の企業版ふるさと納税ページへの情報掲載や市HPでの広報を行っている。引き続き寄附獲得に向け、庁内・庁外に向けて情報発信を行っていく。	
	②競輪などの既存の事業収益の向上及び活用	本場開催時の入場者は、ネット投票の普及により、24,335人と前年度と比べ3,441人(12.4%)の減となった。引き続きマルシェを開催するとともに、まちづくり団体等へ施設を貸し出し、イベントを行ったことにより集客を図った。 車券売上では、民間ポータルサイトでの売上が引き続き好調を維持し、さらには過去30年間で最高の112日本場開催により、37,509,216千円と前年度比6.4%の増となった。 なお、一般会計へは前年度比70,000千円多い670,000千円を繰り出した	別府競輪の事業収益率	3.5%		5.3%		5.2%				5.0%			6.1%		3.6%	A	事業収益率は、令和3年度が5.2%、令和4年度5.0%、令和5年度6.1%と令和6年度目標値3.6%を大きく上回った。本場入場者数はコロナ禍を経て減少していたものの、民間ポータルサイトの売上が急激に伸びており、車券売上高は増加傾向にある。一般会計繰出金も、令和4年度が6億円、令和5年度は6億7千万円と市の財政にも大きく貢献している。	
施策オ 文化を切り口にしたまちの可能性の拡大	①文化芸術活動を通じたまちづくりの推進	・第24回別府アルゲリッチ音楽祭 【テーマ】 ミーティング ポイント～未来を創る 【開催期間】 令和6年5月11日（土）～7月28日（日） ※人数は報告書ができていないので不明 ・別府現代芸術フェスティバル 別府市への「興味喚起の促進」と「参加・関係意識の醸成」を図る以下の5つの取組を実施した。 ＜別府市への興味喚起の促進を図る取組＞ 1.オルタナティブ・マーケット 2.文化観光事業 ＜別府市への参加・関係意識の醸成を図る取組＞ 3.ベップ・アート・マンズ 4.マルシェ・クリエイターズマーケット 5.アートフェアベップ ・別府市民フィルハーモニア管弦楽団事業 令和5年度は例年通り年2回、6月と12月に演奏会が開催できた。 10月から11月にかけて、別府公園東駐車場コンサート（スターバックス前広場）にて、演奏会（市民コンサート）のPRを兼ねて、メンバーによる音楽会を計5回開催。景観とクラシック音楽とが交じり合ったこのコンサートは大変好評を得た。 また、市役所市民ひろばと市役所1フロアにて計5回の音楽会を開催した。 ・マーチング・カーニバルin別府 8回目の開催（10/28、29） 別府市制100周年記念プレ事業として開催 参加団体17団体 入場料一律3,000円（29日のオープニングパレードは観覧無料） 観客実績（全体）16,300人	ベップ・アート・マンズの参加者数	14,590人		27,265人		25,576人		29,265人	15,542人	53.1%	18,650人		20,000人	B	【別府アルゲリッチ音楽祭】 世界的ピアニストであるマルタ・アルゲリッチ氏を総裁に第24回別府アルゲリッチ音楽祭を開催した。例年、国内外から多くのファンにお越しいただき評価できる音楽祭となっている。 【別府現代芸術フェスティバル】 オンライン参加者を見越して、目標値を設定していたが、コロナ禍後となり開催形態をリアル参加主体としたため、目標参加者数を下回ることとなった。しかしながら、コロナ禍前の参加者数を上回っており、その点は評価できるものと考えている。	【別府市民フィルハーモニア管弦楽団事業】 例年通りの年2回の演奏会の他、5年ぶりの別府駅コンコースでのオーケストラ演奏会を開催するなど、別府唯一の管弦楽団の素晴らしい演奏活動により着実にファンが増加傾向にあると評価している。 【マーチング・カーニバルin別府】 別府市制100周年記念プレ事業として開催し、天気にも恵まれて前年度を大きく上回る観客数となった。スローガンに「別府をマーチングの聖地に」を掲げているが、着実に聖地に近づいていると評価している。		
	②新図書館などの整備及び活用	・新図書館等整備事業講話会の開催 ・オープンプラットフォーム会議の開催 ・新図書館開設に向けた計画的な蔵書の整理 ・別府市新図書館等複合施設の工事着工 ・地域・郷土資料館の展示設計の完了	図書館の登録者数	25,142人								31,550人		32,575人		60,000人	C	・市民参加型の会議の開催により市民と共に新しい公共空間をつくる意義について理解と共有を図った。 ・市民参加型の会議での利用者視点を反映し、新図書館の分棟である地域・郷土資料館の展示設計を行った。 ・新図書館等整備事業講話会の開催によって市の政策と連携した効果的な運営及び活用について具体的事例の共有を図った。 ・市民ニーズや社会動向に柔軟に対応した蔵書構成を行った。 ・現図書館の立地等の観点から来館登録者数を飛躍的に伸ばすことは難しいが、前年から登録者数、貸出者数ともに上昇傾向がみられることからC評価とした。 なお、令和6年の設定目標値については当初、新図書館の開館を令和5年度中としていた際に設定されたものであり、現在、開館時期については令和7年度末へと変更になっている。そのため、目標値は令和8年度へ向けて段階的に達成を目指すこととした。		
			図書館の一人あたり貸出冊	2.2冊								2.1		2.4		5冊				

施策名	取組名	令和5年度 事業実績	基本目標・重要業績指標（KPI）															自己 評価	令和5年度 自己評価	備考 （実績値を算定できな い理由等）
			指標名	現状値	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			R6年度 目標値			
				(H30年度)	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度	目標値	実績値	達成度				
施策カ 協働による持続可能な地域づくり	①地域力の維持・向上	市内7つのひとまもり・まちまもり協議会では、それぞれの地域の特性をいかしながら、主体的に地域の課題に向き合い、連携して事業を実施することができた。令和5年度は、地域住民が心身共に健やかに生きるためのウェルネス事業として、地域の食や運動等に着目した事業を行った。また、共生社会の実現に向けた高齢者対象スマホ教室の実施、防災事業として防災講座などを行った。 7協議会の連携会議を開催し、活動事例の報告や情報交換を行い、連携や交流を深めることができた。	ひとまもり・まちまもり協議会事業実施数	10件	18件	7件	38.9%	22件	36件	163.6%	24件	57件	237.5%	26件	72件	276.9%	28件	A	各地域でひとまもり・まちまもり協議会が中心となり、地域の課題解決に向けた主体的な取組を行うことができた。また、1協議会では、拠点となる事務所を設置し、組織運営の強化を図ることができた。 (活動例) 農業体験、スマホ教室、防災講座、ウェルネス事業、清掃活動、あいさつ運動、3世代地域交流事業	
		ひとまもり・まちまもり協議会交流事業参加者数	1,700人	2,300人	0人	0%	1,200人	1,045人	87.1%	3,100人	3,900人	125.8%	3,800人	9,187人	241.8%	4,500人				
施策キ 誰もが安全安心なまちづくり	①誰もが安全安心なコミュニティの形成	・小学生から大学生までの学生や福祉事業所等を対象に講話などを含む防災教育を17回行うとともに各種イベントへの協力を積極的に行うことで、地域住民等の防災への関心を高めることができた。 ・自主防災組織が中心となり防災訓練を34回行い、防災講話等の支援を実施した。また、大規模災害への備えとして避難所運営訓練を行い、訓練内容に外国人や観光客、要支援者などへの対応を盛り込み、地域防災力の向上を図った。 ・①インクルーシブ防災事業として災害時福祉施設BCP作成研修を2回、そのBCP計画の検証を兼ねて、デイサービス事業所を中心にシミュレーション訓練を1回行った。 ②医ケア者の個別避難計画作成を相談支援専門員を中心に、ケアマネジャー、訪問看護ステーション、薬局等関係者ととともに作成、本人を想定してタミナー人形にて移動導線の確認を行った。③これまでBCP研修など行ってきた地域の病院の協力によって、その病院のデイサービス利用者（在宅）の個別避難計画を作成し、地域調整会議を経て病院への避難訓練を行った。福祉・医療・地域の連携によって地域の命を守る訓練になった。④障がい当事者の研修会として、大分气象台とともにタイムライン作成を行った。⑤地域住民や関係者、全国の自治体職員に向けて、インクルーシブ防災事業の報告会を行った。	中規模多機能自治区主導による連携防災訓練実施数	1区	1区	0区	0%	2区	2区	100%	3区	2区	66.7%	5区	0区	0.0%	7区	C	新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、積極的な防災訓練等の実施を促したところであるが、自治会の各種行事の再開などを受けて昨年度と同様の防災訓練等の実施率であった。全国各地で大規模な災害が発生していることから、防災訓練等の重要性などを改めて周知し、実施率の向上を図る。令和5年度に実施できなかった防災士資格保有者への研修を開催したい。 また、ひとまもり・まちまもり協議会主導による連携した防災訓練は実施されなかったため、協議会との効果的な連携要領について検討し改善していきたい。	
	②災害に強いまちづくり	配水池の耐震化率	40.5%	49.0%	48.7%	99.4%	49.0%	48.7%	99.4%	50.6%	48.7%	96.2%	50.6%	48.7%	96.2%	50.6%	C	人件費や資材単価の高騰、経費率の改訂、占用条件による舗装面積増加に伴う舗装工事費の増加、さらに令和6年度からは建設現場における労働環境の改善に向けた取り組みとして週休2日工事実施のため、1件当たりの工事費が増加している。 また、施設を稼働しながら更新する場合、代替施設の検討、場所替も含めた建替を検討する必要があるなど課題がある。 平成29年3月に策定した別府市水道事業基本計画（令和4年11月見直し）に基づき、労働者不足や資材入手難等による工程調整を想定しつつ、目標達成に向けて事業を進めていく。		
		基幹管路の耐震適合率	46.2%	46.3%	46.5%	100.4%	47.1%	47.0%	99.8%	48.2%	47.1%	97.7%	48.9%	48.4%	99.0%	49.2%				
	施策ク 健幸を実現するまちづくり	①全ての世代の活躍に向けた健康寿命延伸の推進	令和5年度も令和4年度と同様に、全市民を対象に参加者の募集を行った。参加者の健康意識が高く保つため、事業参加者に「歩くこと」以外にも関心を持ってもらうために、公認心理師や市の管理栄養士による食事の講話や調理実習、並びに(株)タニタヘルスリンク所属の保健師によるフレイル予防セミナー等の健康講話を提供した。朝食摂取率の向上に向けてた取組として市内の大学と連携し、「簡単朝食レシピ」を作成し、市内のスーパーや市役所での配布、ホームページへの掲載を行った。	健康寿命延伸事業の参加者数	-	1,000人	0人	0.0%	2,000人	197人	9.9%	2,000人	842人	42.1%	7,000人	1542人	22.0%	10,000人（累計）	E	
②「ゆけむり医療ネット」と連携した医療・保健・福祉環境の強化		【令和5年度】 ゆけむり医療ネットは別府医師会を中心とした地域医療・保健・福祉を連携する医療連携ネットワークであり、基幹病院と病院診療所を閉鎖されたネットワークによって結び、紹介された患者の同意のもとにリアルタイムに病院・診療所へ診療情報を参照可能な地域医療連携システムである。管理運用は、別府市医師会が行っている。	「ゆけむりあんしんバレット」登録者数	-	1,300人	174人	13.4%	1,300人	180人	13.8%	1,300人	198人	15.2%	5,200人	198人	3.8%	6,500人（累計）	E	「あんしんバレット」は、登録者数が目標数に達する見込みがないため、令和6年5月31日をもって終了することが決定した。そのため、KPIの達成は不可能となった。しかしながら、健診結果をアプリで確認できる「CARADA」の登録者数は18,000人を超え、今後も増加する見込である。 また、ゆけむり医療ネットワークについては、国の取組を注視しつつ、有効活用していきたい。	